

# うれしい！楽しい！大好き！

ハビリテーション課

言語聴覚士 小野寺 友里

## 1. はじめに

ことばが育つ（話せる）ためにはその基盤となるものが必要となる。ことばが出てくる仕組みと、私たちSTがお子さんとかかわる上で心がけていることを報告する。

## 2. ことばの冰山

ことばを冰山に例え、水面上に出ているのが「言えることば」だとすると、水の中に沈んでいるのは「分かること」になる。分かることはさらに「事柄が分かる」・「ことばが分かる」の2つに分かれる。毎日の生活の中で色々体験する時に丁寧にことばかけを添えることで、分かる事柄が増えて、分かることばが増え、言えることばが増えていく。

## 3. STが考えることば

- ・声に出すことば
- ・分かることば（概念、思考）
- ・コミュニケーション意欲

コミュニケーション意欲を高めていくかかわりを心がけている。

## 4. 関わる上で気をつけていること

- ① ゆっくり話す
- ② 表情豊かに、身振り手振りを加えて
- ③ メリハリをつけた話し方
- ④ 視覚的な手がかりを見せながら
- ⑤ 伝えたいことにポイントをあてた話し方
- ⑥ お子さんの視野に入る
- ⑦ 話しかけた後、その子の反応を待つ
- ⑧ その子の応答に必ず応える

※発達段階に応じていることが大前提

## 5. 具体的な働きかけ

- ・介助をしながら、その動作に合わせたことばかけをする。
- ・お子さんの身体の動きに合わせてことばかけをする。
- ・実際の音をまねて、ことばにする。
- ・ミラリング：お子さんの動作のまねっこ
- ・モニタリング：お子さんの音声のまねっこ
- ・パラレル・トーク：代弁
- ・リフレクティング  
：発音の間違いをさりげなく直す
- ・エクспанション  
：ことばの意味や文法を拡げて返す
- ・モデリング：正しい文章を聞かせる

## 6. まとめ

楡の会を利用されるお子さんは、セラピーの他にも様々なサービスを利用されている。お子さんの情報を共有しながら、そのお子さんのコミュニケーション意欲を伸ばしていきたい。

## 引用文献、参考文献

中川信子：発達障害とことばの相談

黒石敏弘：「きこえ」と「ことばの発達」情報室